



# 熊事研大会速報

熊本県学校事務研究協議会

発行人 会長 上田 千浩

編集代表 研究部長 平野 哲也

平成 30 年 6 月 22 日（金）くまもと森都心プラザにおいて、「変革の時代に対応する学校事務の創造—子どもの豊かな育ちを支援する学校事務—」の大会テーマのもと、平成 30 年度熊本県学校事務研究大会並びに総会が行われました。参加された皆様のおかげで、大変実りある大会になったと思います。参加された皆様は、いかがだったでしょうか？今回は、当日の様子を速報としてお届けします。

|             |       |       |       |       |       |       |  |       |       |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|-------|-------|
|             | 10:00 | 10:20 | 10:40 | 12:00 | 13:00 | 13:20 |  | 16:20 | 16:30 |
| 熊事研大会<br>日程 | 受付    | 開会行事  | 総会    | 昼食    | 研究基調  | 全体研究会 |  |       | 閉会    |

## 開会行事～来賓あいさつ～

熊本県教育庁 教育総務局 学校人事課 審議員 井手 正直 氏

熊本地震後の心のケア、学習支援の必要な子どもたちが多いなか、子どもたちが安心して学ぶ環境づくりを、今後より一層の強化を行っていく必要がある。

また、学校マネジメントの課題を始め、多くの課題が学校にはある。学校事務の在り方、学校事務職員の役割について、改善を図ることを柱として様々な取組を行っている。

平成 25 年度からは採用区分を教育行政・教育事務に変更した。これは、幅広い視野と知識を習得し、学校運営にかかわっていく人材を育成していくことを目標としている。平成 26 年度からは学校事務センターを設置している。これまでに 15 か所の学校事務センターが設置されている。事務長も配置し、学校事務センターへは学校事務職員の育成も期待している。

平成 29 年 11 月に教育行政・教育事務職に係る人事・人材育成基本方針について（採用 10 年目まで）通知した。これは、教育庁全体として人材育成に取り組んでいくための基本方針を定めたものである。

チーム学校がより有効に機能するために、主体的に学校運営に参画する学校事務職員を育成する意識を全員がもつことで、学校事務職員の意識向上や熊本県教育全体の活性化につながるものと考えられている。今年度より採用から 11 年経った学校事務職員を対象に中堅職員の研修を実施する。中堅事務職員としての実践的専門的知識の習得を図ることを狙っている。

学校事務職員をとりまく環境が大きく変化するなか、多様な学校事務職員像を描くことが可能になった、この変革を好機ととらえ積極的に取り組んでほしい。



# 研究部基調

## 研究部の取組

『変革の時代に対応する学校事務の創造』  
～子どもの豊かな育ちを支援する学校事務～

提案者 熊事研研究部

今年度の熊事研研究部の取組の方向性について、熊事研研究部 平野研究部長より説明がありました。概要は下記のとおりです。

熊事研研究部員は、各地区から選出された11名と会長推薦枠として、県央、県北、県南からそれぞれ1名、全事研情報調査担当として1名、理事代表として1名で、毎月1回研究部会を開催している。研究部員は各地区の代表として、各地区のニーズを研究部活動へ反映しながら班ごとにわかれ活動している。

研究目標は、『変革の時代に対応する学校事務の創造』～子どもの豊かな育ちを支援する学校事務～。研究テーマは、「現状より一歩前へ」。意識変革により「変わらなければいけない」「今のままではいけない」。やっていることを可視化し、現状より一歩前へみんなで踏み出そうという意識にそろえること。会員の意識を、現状より一歩前へ踏み出そうという意識にそろえることで、組織の意識をそろえることを研究部のビジョンとして、その構築を図ることを研究テーマとして研究部で研究活動を推進している。

ビジョンとは、研究部が思い描きながら研究している学校事務職員の近未来像。学校を主語として、学校事務職員が「あるべき姿」にどうしたらなるのか「なりたい姿」とはどのような姿なのか「目指しているもの、目指さなければいけないもの」はなんなのか。それを中・長期的期間における具体的なイメージを描いている。そのイメージを描くことをビジョンとし、その構築を図ることをテーマとしている。

### 目指している山の頂と歩むべき道を示す



AIにはできない子どもたちとの「ふれあい」は人としての強みである。教員と話す機会になり、コミュニケーションを図りながらの協働になる。

無意識にできていることを意識しましょう。できていることを可視化するためにランドデザインの意識変革チェックシートに書いて誰かに話してみよう。アウトプットすることで、教員との協働するための壁がなくなる。協働するチームの一員としての役割を主体的・積極的に担う存在であることに気づき、意識を変えて子どもたちの笑顔を増やすことができる。

「研究部員は、貴重な業務の時間を割いて、熊本県の学校と、熊本県の学校事務職員のために研究部活動をしています。仲良く、意見をぶつけあいながら研究をしています。たくさんの人に支えられ協力していただいていることで研究部活動ができている。熊事研研究部も頑張りますので、地区研も一緒に頑張っていきましょう。今が変革のチャンスです。」と学校事務職員と学校事務組織の意識の変革について基調しました。



## 講演

『これからの事務職員に求められるもの』

～“つかさどる”ために何をしていくのか、何ができるのか～

講師：文部科学省 初等中等教育局 参事官（学校運営支援担当）木村 直人 氏



これからの学校事務職員に求められるものということで、“つかさどる”法改正となり「どうしたらいいのだろう」「何をしたらいいのだろう」を考えるヒントになる話と、次からのアクションを起こしていくためのきっかけになるワークショップが行われました。一人職だからこそ、初めましての人たちと仲間になってほしいと、指定席にされ、楽しんで帰ってほしいという木村先生の講演は終始楽しいワークショップでした。

概要は以下のとおりです。

- ・学校は何のために、誰のためにあるのか、原点を考えてみよう
- ・コミュニティにおいての学校について、広い視点でものを考えられるようなきっかけづくり
- ・上記2点をふまえたうえで、学校事務職員に何が求められるのか考えよう

を語り合いたいこととし、話をされました。

まずは ～アイスブレイク～

「口（くち）」に2画足して、どんな漢字ができるか2分間考えましょう（例えば田んぼの田）



個人で考えます  
最高 12 個



グループで考えます



会場全体で考えます  
25 個集まりました

アイスブレイクで会場を和ませられたあと、講演を始められました。

子どもたちにとって最適な環境ですか？自分たちにとっても働きやすい環境ですか？子どもたちが笑顔で過ごせる環境であるべき場所が学校です。質の高い教育を提供できる学校になっていますか？と問いかけがありました。

子どもたちが笑顔で過ごせる魅力あるまちづくりをするために、魅力ある学校づくりをしなければならない。未来のまちの姿を見据えた未来の学校をつくっていくために、誰かがなんとかしてくれるのではなく、自分たちが「当事者」として自分たちの力で学校や地域を創り上げていく必要がある。しかし、学校現場をとりまく課題は、複雑化・困難化している。だから、「チーム学校」で動かなければならない。そのなかで、管理職は学校をマネジメントし経営しなければならない。学校事務職員は、その管理職を支える役割として大きい存在である。

学校事務職員が、学校運営に参画することのメリットは、たくさんある。とくに学校経営体制が強化されることで、組織のマネジメント力が必ず向上する。質の高い教育ができるようになり、到達すべき学校目標・ゴールに向かっていく原動力になる。

まさに役割の変動期。「今までこうだった」は、通用しない。事務処理からビジョン・カリキュラムへの貢献していくことが求められている。教育委員会や管理職、みんな理想とするところや目指すところは同じなのに、いつまでも認識のギャップが埋まらない。だから、コミュニケーションが大事。常日頃からのコミュニケーションが相互理解とよりよい環境づくりにつながる。

情報を共有する→アクションの方向のベクトルがそろう→小さな成功が積み重なる→次へ次へとモチベーションもあがる。このサイクルをまわしていくことをぜひ実践してほしい。

中教審の12月の中間まとめでは、学校事務職員は学校運営に参画することが求められている。また、勤務の実情を踏まえつつ、学校事務職員の仕事が増えすぎないように、法制化された共同学校事務室の活用や、様々なシステムの導入など、施していく必要がある。働き方改革でも学校事務職員は中心的な役割を果たすことが期待されている。学校特有のあるあるを変えなければならない。非常識人の組織の中にいる常識人＝事務職員！にしかできないことがある。

どうせやらなければならない仕事なら、楽しくやればいい。ポジティブサイクルを回していかなければならない。意識的に変えていかなければならない。学校の本来の役割を取り戻すためには、組織として、チームとしての学校をつくりあげていかなければならない。それぞれの専門性を生かし、子どもたちのことを考える、子どもたちにとって教育を与える最適の場へ、そして、子どもたちが笑顔で過ごせる学校へしていかなければならない。そのために、学校事務職員もこれまで以上に自覚と責任をもって取り組んでいかなければならない。



講演のあと、「将来こんな事務職員になりたい」というビジョンを描き、バックキャスト型ワークショップを行いました。将来自分がどうなりたいのか、最終的な目標を設定し、そこに向かって進むべき道を定める。だから大きい目標に取り組みめるということで、「ゼロベース」であるべき姿をみんなで考えました。

何のために学校があるのか、何のために働いているのか、それは、子どもたちのためだけ、自分たちも笑顔で働きたい。でもギャップがある。そのギャップを埋めていくために、何が邪魔をしているのか、それを一人で解決せず、みんなで取り組む。必ず動く。そしたら、必ず変わる！決めつけず、あきらめず、コミュニケーションをとり続ける。前向きになってください。そうすると、相手が何を考えているか理解でき、お互い働きやすい環境になる。

意識的に前のめりにしていけば、必ず進む。幸せを感じれば感じるほど、仕事ができる。無理をしない。ありのままの自分で。気を使いながら、自分を出していく。そして、感謝の気持ちを忘れずに仕事をしていく。幸せだなんて思いながら仕事をするほうが、生産性が高い仕事ができる。だから、後ろ向きでなく前向きに。「風を吹かせる」向かい風であればあるほど、飛べる翼をみんなはもっている。はばたける！ともに頑張りましょう！と締めくくられました。